

2021年度 甲賀地域ぶどう栽培研究会暦(シャインマスカット)

令和3年2月末時点

月	旬	生育ステージ	管理作業	かん水	内容
3	上・中	休眠期	基肥施肥		・右図を参考に施肥。 主枝延長 1本あたりの施肥量(g) エコレット048 硫酸マグネシウム 参考 10aあたり基肥窒素量 4m 600g 400g 2.4kg 8m 1,200g 800g 4.8kg 10m 1,500g 1,000g 6kg
		樹液流動開始	かん水はじめ 主枝のぶら下げ	・水分不足は発芽遅延や発芽不揃いを招く ・土が乾燥しないように保つ ・晴天日の午前中に灌水する	・萌芽の揃いを良くするために樹液流動開始前にかん水を開始する。 ・定植3年目以降は、主枝の先端を下げることで均等な発芽が期待できる。
4	上・中		《カイガラムシ類、ハダニ類、越冬病害虫》 ビニール被覆開始		石灰硫黄合剤(7倍、萌芽前)※展着剤加用 ※粗皮削りを行ってから散布すると効果が高い。ポルドー液との混用はしない。 ・萌芽前に被覆を行う。
		萌芽～展葉	【展葉5～6枚】芽かき		・不定芽、副芽をかきとる。新梢間隔を確保するため、1芽座から2本の新梢を出す場合もある。
5	中	新梢伸長・展葉	【展葉6枚】樹齢5年目までの肥大処理		・フルメット2ppm(花房散布または浸漬)
			【展葉7枚前後～】ねん枝・誘引摘房① 巻きツル除去		・誘引は、ねん枝を行いなからする。 ・新梢間隔を確保するため、1芽座から2本の新梢を出す場合もある。 ・1新梢あたり1房とする。弱い新梢は空枝にする。 ・収穫後まで巻きツルは除去する。
			【展葉9～10枚】《べと病、黒とう病、晩腐病》	・土が常に湿り気のある状態を保つ	・ジマンダイセンフロアブル(800倍、開花前)
			【開花はじめ】新梢摘心 花穂整形 無核率向上処理	・極端な乾燥は、花ぶるいを助長する ・開花10日前には特に水分が必要【pF2.2程度】	・花穂から先の新葉を6枚残して摘心する。 ・花穂の先端を使い3.5～4cmに整形する。 ・花穂整形が早すぎると花穂が長くなりすぎる。 肥大促進の重要技術 主枝片側の目安 1mあたりの新梢数 新梢間隔 5本 20cm
6	中	上	満開	【満開～3日後】1回目ジベレリン処理(フルメット加用)	・フルメット5ppm 加用 ジベレリン25ppm ・晴天で風の強い時は処理を見合わせ、処理予定日前から園内に散水して湿度を保つ。 ・蕾が全部咲いて花冠が離脱した直後が適期。花冠取り器で花冠を十分落とす。 ・房の状況で複数回に分けて処理を行う。
			開花後	《灰色かび病、うどんこ病》 《チャノキイロアザミウマ、コナカイガラムシ類》	・フルピカフロアブル(2,000倍、開花期～幼果期) ・スタークル顆粒水溶剤(2,000倍、前日)
			結実期	【ジベ処理4日後】果房整形 予備摘粒	・穂軸長を7cmに調整する。 ・内向き果粒と著しい小粒を取り除く。
			幼果期	摘房②	・目標房数の1.3倍まで摘房をすませる。着粒の確認後、2回目ジベレリン処理までに行う。
				【満開10日後】追肥①	・「琥珀」を主枝延長に応じて施用する。 主枝延長 1本あたりの施肥量(g) 参考 10aあたり窒素量 4m 140g 0.78kg 8m 280g 1.57kg 10m 350g 1.96kg
				【満開10～15日後】2回目ジベレリン処理	・ジベレリン25ppm ※果皮が固くなるので2回目はフルメットを入れない。 ・ジベ焼け防止のため、処理後液をよく弾き落とす。
果粒肥大期	【2回目ジベ処理後】仕上げ摘粒 摘房③	・2回目ジベレリン処理後直ちに開始し、果粒がダイズ大になった頃までに仕上げる。 ・目標房数に仕上げる。 ・やや強めの新梢に着房させる。 ・果粒の肥大状況を見ながら果粒軟化期までに摘房する。 主枝延長 1本あたりの施肥量(g) 参考 10aあたり窒素量 4m 140g 0.78kg 8m 280g 1.57kg 10m 350g 1.96kg			
	【満開20日後】追肥②	・「琥珀」を主枝延長に応じて施用する。			
	《うどんこ病》	・トリフミン水和剤(3,000倍、7日前)※展着剤フレイクスルー10,000倍添加(濃度注意)			
7	上	果粒軟化期	袋かけ・ビニール被覆除去	・糖度上昇のため果粒軟化期に袋かけを行う。 ・袋かけが済み次第ビニールを除去する。	
			《べと病》	・ランマンフロアブル(2,000倍、14日前) ※果粒の汚れを防止するために袋かけ後に散布する。	
8	中・下	収穫期	【果粒軟化期以降】臨機追肥	・収穫まで葉色50を維持するために「琥珀」で臨機追肥を行う。	
			収穫	・糖度17度以上、シャインマスカット用カラーチャート3～4で収穫する。	
9	中・下	収穫直後	礼肥	・「琥珀」を主枝延長に応じて施用する。 主枝延長 1本あたりの施肥量(g) 参考 10aあたり窒素量 4m 140g 0.78kg 8m 280g 1.57kg 10m 350g 1.96kg	
			《べと病、さび病》 《ブドウトラカミキリ、コガネムシ類、フタテンヒメヨコバイ》	・ムッシュポルドードライフロアブル(500倍) ・スミチオン水和剤40(1,000倍、21日前) ※混用は散布直前に行う ※高温多湿期の散布は薬害を生じる恐れがあるのでクレファンを加える。	
10					
11	下	落葉期	落葉処理	・落葉は集めて園外に持ち出し処分する。	
12		休眠期	せん定 越冬病害虫防除	・切り落とした枝の中にはトラカミキリ・スカシバの幼虫が入っていることがあるので処分する。 ・主幹や主枝、結果母枝にトラカミキリ・スカシバが食入していないか点検する。 ・粗皮削りを行い越冬病害虫対策を行う。	
			土づくり	・堆肥と土づくり資材の施用を右表を参考にを行う。 主枝延長 1本あたりの施肥量(g) リンスター30 苦土消石灰 FTE 4m 300g 800g 40g 8m 600g 1,600g 80g 10m 750g 2,000g 100g	

摘心管理 マニュアル参照

【満開30日後】摘心は控える【果粒軟化期】

摘心管理

※農薬使用の際には、ラベルに従って下さい。

※薬剤抵抗性害虫の発生を避けるため、同じ薬剤を続けて散布しないようにしましょう。